

年 組 ( ) 名前

サイン

◆おかしがたくさん並んでいます。みんな同じ名前のおかしです。(2023年9月19日 読売新聞夕刊より)



手作り

発想の美

※先生やおうちの人と  
いっしょに読みましょう。

【1】記事の口には、写真に写っているおかし  
の名前が入ります。ひらがな3字で書きこみま  
しょう。

【2】あなたが知っている「和がし」をたくさん書きましょう。

美しいおはぎが注目を集  
めている。洗練された形や  
色、個性的な味……。発想  
豊かに手作りを続ける専門  
店を訪ねた。  
東京都世田谷区の「タケ  
ノとおはぎ」では、定番の  
こしあん、粒あん以外に、  
5種類のおはぎを日替わり  
で出している。代表の小川  
寛貴さんは「できる限りた  
くさんの種類を楽しんでも  
らいたくて」と話す。

年 組 ( ) 名前

サイン

# 山中塗の魅力 凝縮

## 各工房が協力新漆器

◆ 石川県加賀市の伝統工芸品「山中塗」の事業者らが、漆器の新シリーズを共同で開発しました。ライバル同士の各工房が協力した背景には、どのような事情があったのでしょうか。(2023年11月9日 読売新聞朝刊より)



新シリーズ「もののぐ」に次々と漆を塗りつける中村さん(石川県加賀市で)

石川県加賀市の伝統工芸品「山中塗」の事業者らの組合が開発した。生活スタイルの変化で引き出物などの大口需要が望めない中、日常の道具としてのブランド化を目指し、各工房がライバル関係を捨てて職人の技術を結集させた。

### 石川・加賀

加賀市山中温泉地区の工房で、職人の中村周二さん(44)がろくろを回し、器に漆を塗りつけていた。1日400個、乾かしながら作業を繰り返す。全工程は20〜30に上り、完成に6〜9か月かかる。

制作しているのは、「山中漆器連合協同組合」(249事業所)が9月に売り出した新シリーズ「もののぐ」だ。組合は5年前から構想を練り始め、各工房から工程別に技術力の高い職人を集めた。伝統的な黒や赤をやめ、木目が映える「黒でも赤でもない色」を半年かけて開発。角張った形は、木地師らが手になじむデザインを考案した。

力して一つのものをつくるのは珍しいという。

背景には、生産者の危機感がある。引き出物の定番だった1980年代〜90年代半ばは、88年の400億円をピークに年間300億円以上の生産額を誇ったが、2010年以降は100億円前後に減少し、コロナ下では50億円台に落ち込んだ。

伝統的工芸品産業振興協会(東京)によると、山中塗のような大きな産地が協会の「新市場に挑戦し、後継者を呼び込むためにブランド化は必須。日常生活に定着した『今治タオル』のような存在にしていきたい」と意気込んでいる。

山中塗 安土桃山時代の木工職人・木地師が作り始めた。乾燥などでゆがみが出ていく頑丈さが特徴で、石川県の輪島塗が「塗りの輪島」と呼ばれるのに対し、「木地の山中」と評される。

【1】山中塗の各工房が、ライバル関係を捨てて協力したのはなぜでしょうか。また、新シリーズではどのような工夫をしましたか。

【2】漆器や陶器、織物などには、どのような伝統工芸品がありますか。その特徴や歴史も調べて書きましょう。

年 組 ( ) 名前

サイン

# 新たな島出現 硫黄島沖の噴火で



④ 硫黄島沖に出  
現した新島 ③小  
笠原諸島・西ノ島

◆東京都心から南に1200km。小笠原諸島・硫黄島の隣に新たな島が出現しました。海底火山の噴火で岩石が積み上がり、南北約400mにわたる陸地が作られました。

気象庁の9日の発表によれば、この場所で激しい噴火が始まったのは10月21日。火山灰や軽石を含んだ水柱が100mの高さにまで達することもあり、堆積物がみるみるうちに陸地を形成していったという。

## ■ 勢い弱まり面積縮小

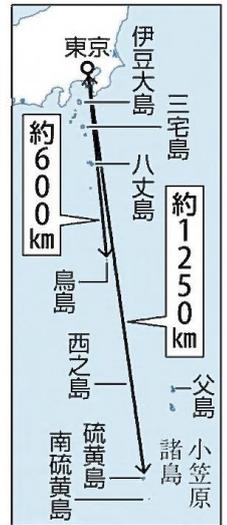
海底火山の噴火による島の誕生といえば、同じ小笠原諸島の西之島のケースが記憶に新しい。2013年11月に出現した小島が溶岩流によって西之島と接続。島の面積は大きく拡大し、さらに波や風、鳥によって運ばれてきた生き物が少しずつ繁殖していく「生態系の形成」をゼロから観

察できる貴重な場となった。

ただ、今回も同じような経緯をたどる可能性は低そうだ。気象庁などによると、硫黄島の「新島」の噴火は弱まっており、波の浸食で陸地面積が徐々に縮小しているという。

国際条約が定める「島」の定義は、①自然にできた陸地②水に囲まれている③満潮時でも水面上にある——の3点。このまま浸食が進めば、③を満たせなくなるかもしれない。

(2023年11月17日  
読売中高生新聞より)



【1】日本は世界有数の「火山国」と言われ、たくさんの活火山があります。火山はどのように活動するのか、その仕組みを調べて書きましょう。

---

---

---

---

---

【発展問題】日本近海にはどのような海底火山があるのか、名前と場所を調べて書きましょう。

年 組 ( ) 名前

サイン

# 古着 生まれ変わって店頭に



ユニクロ原宿店内でオープンした古着販売コーナー

ユニクロは、原宿店に設けた古着コーナーで、消費者から回収した衣料品を洗浄して販売している。Tシャツやスエットは、染めてビンテージ風にアレンジするなどの加工もしている。価格は新品の3分の1程度で、22日まで限定販売する。ユニクロはこれまでも衣

料品の回収に取り組んできた。2001年から使用済みフリースの回収を始め、06年からは対象を全商品に拡大した。着用可能なものは世界の難民キャンプや被災地などに届け、着用できない服は燃料や断熱材などとして活用してきた。

## アパレル各社 回収注力

◆アパレル大手各社の間で、着なくなった衣料品の回収に力を入れる動きが広がっています。

ユニクロは、原宿店に設けた古着コーナーで、消費者から回収した衣料品を洗浄して販売している。Tシャツやスエットは、染めてビンテージ風にアレンジするなどの加工もしている。価格は新品の3分の1程度で、22日まで限定販売する。ユニクロはこれまでも衣

料品の回収に取り組んできた。2001年から使用済みフリースの回収を始め、06年からは対象を全商品に拡大した。着用可能なものは世界の難民キャンプや被災地などに届け、着用できない服は燃料や断熱材などとして活用してきた。

規模で古着回収を行っている。オンワード樺山では、回収した衣料品を丁寧に検品し、東京・吉祥寺の店舗で販売する。今年からは回収した衣料品に手を加えて新たな商品にする「アップサイクル」の取り組みも始め、来春にも販売予定だ。回収や再生にはコストがかかるが、企業のイメージアップになり、消費者の環境への関心を高めることにもつながる。ニッセイ基礎研究所の久我尚子上席研究員は「消費者の環境問題への意識は高まっているものの、どう行動したらいいかわからないという人も多い。こうした取り組みが広がることによって行動へのきっかけとなりうる」と指摘する。



(2023年10月12日  
読売新聞朝刊より)

【1】アパレル各社が古着の回収に力を入れる背景には、どのような狙いがありますか。また、消費者にとってはどのようなメリットがあるのでしょうか。

【2】あなたならば、着なくなった服をどのように再利用しますか。また、衣料品以外で再利用できるものを探し、それを商品化するアイデアを考えて書きましょう。





◆爪が割れ、「お医者さんに診てもらった方が良い」と言われたミー太郎は、即逃走。どうやら「お医者さん」が禁句のようです。

have trouble ~ ing  
~するのは難しい、問題がある  
「trouble」は「苦労、困難」という意味です。否定形の「have no trouble ~ ing」は、「難しく(いとも簡単に)~できる」の意味です。

★あわせて覚えよう★  
• have difficulty ~ ing ~するの  
のが難しい、大変だ、苦労する  
• take trouble 骨が折れる

単語帳  
intention: 目的、vaccinate: 予防注射を打つ、vet: 獣医師、figure out: 分かる

★なぞってみよう★  
have trouble  
have difficulty

# 2023年日本・海外10大ニュース まもなく投票スタート！

## ～今年のふりかえりや時事問題のおさらいに、みんなで投票しよう～

読売新聞社は、2023年の「日本10大ニュース」と「海外10大ニュース」への投票を募集します。

日本10大ニュースは1947年から、海外10大ニュースは1989年から、それぞれ毎年のみなさんの投票で決定し、激動する国内、国際情勢の記録を刻んできた歴史ある企画です。昨年は「日本」「海外」あわせて約5万通の投票がありました。

今年の投票の手引・要領は、12月2日（土）の読売新聞朝刊と、読売新聞オンラインに掲載します。児童・生徒のみなさんをはじめ、誰でも投票できます。一年のニュースをふりかえる機会として、授業やNIEの活動などで活用してはいかがでしょうか。

「日本」「海外」いずれも、約60項目の候補から、順位をつけずに10個を選んで投票します。12月6日（水）にお送りするワークシート通信で、応募方法の詳細をお知らせします。ワークシート通信に添付する教材を投票用紙として使えるほか、今年はウェブ投稿フォームでの投票も可能です。

投票締め切りは12月18日（月）必着です。結果発表は日本が12月23日（土）、海外が12月24日（日）の予定です。

投票項目がすべて10位以内に入った「全项目的中」の方は、結果発表時に氏名を掲載し、賞品を贈ります。みなさんの参加をお待ちしております！



※2022年「日本10大ニュース」発表紙面（12月24日付け読売新聞朝刊）

過去の10大ニュースや特別企画「戦国10大ニュース」も見られる  
読売新聞オンラインの「10大ニュース」特設ページはこちら  
<https://www.yomiuri.co.jp/feature/top10news/>



【お問い合わせ】読売新聞東京本社世論調査部「10大ニュース」係 (t-top10news@yomiuri.com)